

## 日本知能情報ファジィ学会 第29回総会議事録

日時：2018年6月2日（土） 14:00～15:00

場所：関西大学・高槻ミューズキャンパス・西館4階 M401

出席者：23名

### 1. 会長挨拶（林会長）

- ・ザデー先生の追悼イベントを様々な形で企画してきたことが説明され、今後は学会活性化に向けての理事会の柱について検討するとともに対策を実施していきたい旨が説明された。

### 2. 本総会での敬継方法について（広兼総務担当理事）

- ・定款の第17条により、第15期林会長が議長を務めることとした。
- ・定款の第20条により、決議方法については、会長を除く会員出席者の挙手により、過半数の賛同を得ることにより決議することが承認された。（前回までの総会と同様の方法）

### 3. 平成29年度事業報告（本多事業・研究推進担当理事）

#### 3.1 平成29年度事業報告（本多事業・研究推進担当理事）

- ・本多事業・研究推進担当理事より、平成29年度事業報告に関する説明がなされた。
- ・本多事業・研究推進担当理事より、事業委員会の活動報告に関する説明がなされた。
- ・櫻井会誌担当理事より、学会誌編集委員会の活動報告に関する説明がなされた。
- ・井田規程・選奨担当理事より、学会賞選考委員会の活動報告に関する説明がなされた。
- ・能島広報担当理事より、広報委員会の活動報告に関する説明がなされた。
- ・星野大会デザイン委員会委員（橋山大会デザイン担当理事代理）より、大会デザイン委員会の活動報告に関する説明がなされた。
- ・前田特任・資料アーカイブズ担当理事より、資料アーカイブズ委員会の活動報告に関する説明がなされた。
- ・中島特任・電子化データベース担当理事より、SOFT-CR委員会の活動報告、および会員データベース委員会に関する説明がなされた。

#### 3.2 平成29年度事業報告に対する監査報告（堀口事業担当監事）

- ・堀口事業担当監事より、事業監査報告に関する説明がなされた。

#### 3.3 平成29年度決算報告（堀尾財務・会計担当理事）

- ・堀尾財務・会計担当理事より、平成29年度決算報告に関する説明がなされた。

#### 3.4 平成29年度決算報告に対する監査報告（金久保財務・会計担当監事）

- ・金久保財務・会計担当監事より、会計監査報告に関する説明がなされた。

#### 4. 質疑

【Q】FSS と IFSA の個々の収支についてはどのようになっているのか。

【A】FSS は約 150 万円，IFSA-SCIS は約 125 万円であることが説明された。赤字の主な原因は、別刷り・Web 掲載収入の減収，理事会費，ザデー先生追悼イベントなどの出資となっていることが説明された。

#### 5. 決議

- ・上記の事業報告および決算報告について諮ったところ，23 名の挙手によって満場一致で承認された。

#### 6. 平成 30 年度事業計画（本多事業・研究推進担当理事）

##### 6.1 平成 30 年度事業計画（本多事業・研究推進担当理事）

- ・本多事業・研究推進担当理事より，平成 30 年度の事業計画に関する説明がなされた。
- ・櫻井会誌担当理事より，学会誌の表紙デザインの更新，学会誌の A4 化および論文一体化に関する説明がなされた
- ・前田特任・資料アーカイブズ担当理事より，3 大誌の電子化がほぼ完了していることが報告された。今後は公開していくとともに，3 大誌以外のものにも取り組んでいくことが報告された。出席者に対して，ファジィ関連文献の提供およびシニア世代研究アイへの参加についての依頼があった。
- ・中島特任・電子化データベース担当理事より，FSS2018 で SOFT-CR とファジィ学問塾の連携企画についてアナウンスされ企画セッションへの参加の依頼があった。また，学会誌特集号の企画も実施していることが報告された。

##### 6.2 平成 30 年度予算案（堀尾財務・会計担当理事）

- ・堀尾財務・会計担当理事より，平成 30 年度の予算案に関する説明がなされた。

#### 7. 質疑

【Q】予算案について赤字のまま記載するのは大丈夫でしょうか。

【A】書類としては問題なく，危機感を感じていただくためにもこのままで表記したい。実態としては，赤字の部分は当期剰余金から充てることになる。

#### 8. 決議

上記の事業計画および予算案について諮ったところ，23 名の挙手によって満場一致で承認された。

## 9. その他

【Q】昨年度の論文数が減った原因については

【A】一般論文は少なく，特集論文に頼っているのが現状であり，昨年度は特集論文を企画することがうまくいかなかった面がある．そのために，論文の掲載数が減少した．今後は，Webだけでなく，学会誌と論文誌を一体化して印刷し郵送することで，論文投稿数の増大を促していく仕組みを検討していきたい．論文の掲載方法（リアルタイム）についても検討していく．

以上